

公共事業再評価調書

所管課： 河川課

1 事業概要	事業名： 億首川河川改修事業				
	事業種別： キャンプ・ハンセン 周辺障害防止対策事業	事業主体： 沖縄県		当初事業期間： H18～H31	
	事業箇所： 金武町	根拠法令： 河川法		事業期間： H18～H35	
	総事業費(百万円) 700	費用内訳： 補助 9/10		事業量： L=0.96km	
(整備目的)	計画降雨に対する治水安全度の向上を図り、浸水被害の解消を目指す。また、環境に配慮した多自然川づくりを目指す。				
2 再評価 該当項目	<input type="checkbox"/> ① 事業採択後10年間を経過 <input type="checkbox"/> ② 事業採択後5年間を経過して未着工 <input checked="" type="checkbox"/> ③ その他（平成24年度河川整備計画策定後一定期間(5年)経過）				
3 再評価に至った主な要因 (具体的理由)	<input checked="" type="checkbox"/> ① 用地取得の困難 <input type="checkbox"/> ② 調査・設計の困難 <input type="checkbox"/> ③ 事業の拡大 <input type="checkbox"/> ④ 予算の確保 <input checked="" type="checkbox"/> ⑤ 手続き・法令の問題 <input type="checkbox"/> ⑥ 他事業との関係 <input type="checkbox"/> ⑦ 整備効果の問題 <input type="checkbox"/> ⑧ 当初計画が長期間 <input type="checkbox"/> ⑨ その他（ ） ・物件補償交渉に時間を要した。 ・福地2号橋から下流の基地内については、沖縄防衛局との、調査設計のための立入りや、返還・一時使用の協議に時間を要した。				
4 事業の 進捗状況 (H29. 3時点)	項目	事業費(百万円)	整備 (Km)	用地取得(千㎡)	
	計画	700	0.96	20.7	
	実施済	304	0.30	6.9	
	率	43 %	31 %	33 %	
5 事業効果の 評価指標 (検討年 整備期間+50年) (基準年H29) (単位:百万円)	① 一般資産	1,754		① 建設費	673
	② 農作物	62		② 維持費	192
	③ 公共土木施設	2,968			
	④ 間接被害額	124			
	便益(B)	4,908			
	基準年換算(B')	1,979			
	⑤ 残存価値	7		総費用	865
	総便益	1,986		基準年換算(C)	795
	費用便益比 (B'/C) = 1986 / 795 = 2.5				
6 事業を巡る 状況の変化	① 社会・経済： 河川改修区間の下流に位置する金武ダムが平成26年4月から運用開始された。 ② 地元・自治体 恩納村および金武町より継続して早期整備の要請がある。 (平成29年8月3日 北部市町村会との行政懇談会) ③ 利害関係者： 福地2号橋から下流の基地内については、調査設計のための立入りが望めない状況であったが、平成29年8月に沖縄防衛局より「一時使用の手続きを進める」との回答があった。				
7 事業の必要性・効率性	① 事業の必要性・緊急性・有効性など： 未整備区間があるため、依然として氾濫の危険性があり、早期の整備が必要である。 ② 事業の効率性(代替案等の可能性やコスト縮減)： 未整備箇所の用地については全て金武町有地であり用地買収が容易であることや、現河川を拡幅するため施工費が安価であることから現計画を推進することが効果的である。 ③ 事業効果の発現状況： 長浜橋から福地2号橋の整備が完了した区間は、浸水被害の低減が図られている。				
8 今後の対応・見直し	① 事業計画等： 福地2号橋から下流の基地内については、一時使用手続きを進め、早期に河川工事が実施できるように沖縄防衛局と協議する。 ② 対住民関係： 物件補償対象者(1件)については、引き続き任意交渉を継続する。 ③ 執行体制等： 現体制で執行可能である。				
9 対応方針	<input checked="" type="checkbox"/> ① 事業継続(現計画) <input type="checkbox"/> ② 事業継続(見直し) <input type="checkbox"/> ③ 事業の中止				